

特集「21世紀のグループウェア」の編集にあたって

宗 森 純†

人間の協調作業支援に関する研究を行うグループウェア研究会は92年に発足し、毎年4回から6回の研究会と各種シンポジウムとを開催して、グループウェア研究の発展に貢献してきた。そして今では代表的なグループウェアである電子メール、WWW、ワークフローソフトウェア、電子会議やインスタント・メッセージなどは、その利用が定着してきた感がある。そのため、グループウェア研究会では、2001年度からはその研究範囲を広げ、グループウェアとネットワークサービス(GN)研究会に発展し、ネットワークを用いたサービスの研究にも重点をおくこととなった。

21世紀の高度情報化社会において、高速ネットワークを基盤とする分散処理やマルチメディア通信、モバイルコンピューティング等を縦横無尽に組み合わせた新しい分散システムとして『21世紀のグループウェア』の研究が求められている。このようなテーマについては、情報処理学会のマルチメディア通信と分散処理(DPS)研究会、本研究会などが中心となり、これまでに、各々毎年100件程度の優れた論文が研究会およびシンポジウムで発表されてきている。研究会員数も、DPS研とGN研は、ともに300名以上あり、活発な活動が行われている。グループウェアの基本技術は、マルチメディア、ネットワーク、ヒューマンインタフェースであり、これに関連する研究会と共催でシンポジウムなどを開催している。本年6月には97年から行っているDPS研、GN研にモバイルコンピューティングとワイヤレス通信研究会などを加えた7つの研究会で共催するワークショップDICOMO2001が開催され、129件の優秀な論文の発表があった。また、99年から行っている、ヒューマンインタフェース研究会らと共催のインタラクティブシンポジウム(本年3月)では300名以上の参加者を集めている。さらに、本年3月に開催された本会第62回全国大会で、特別トラックとして「グループウェアとネットワークサービス」が設けられ、ここで80件を越す発表が行われた。

本特集は、これらの研究会、シンポジウム、全国大会などで発表された研究を論文として完成させ、迅速に刊行することを目指したものである。今年度からグループウェアとネットワークサービス研究会と名称が変更され対象範囲が広がることもあり、特集号の範囲

を特に限定せず幅広い論文を募集することとし、特集の題目を「21世紀のグループウェア」とした。論文募集に対して15件の投稿があった(うち1件は、取下げ)。そのうち査読者とメタレビューの厳正な査読により6件を採録とした。採択率は43%(6/14)となった。論文募集締切から8カ月で、当初予定どおり11月号としての刊行となり、投稿者らの強い要求である即応性にも十分対処できたと考えられる。

本特集号では当初の狙いどおり、教育支援システム、情報共有、インターワークフロー、モバイルグループウェア、3次元仮想空間など、21世紀のグループウェアにふさわしい論文が採録された。

特集号は1冊にその分野の研究が凝縮されていて、なおかつ今回のように3月に投稿したものが11月号に掲載されるように比較的早く論文として発表できる。そのため、グループウェアのように小規模な研究のグループではあるが発展のスピードが急な分野の研究者にとっては、非常にありがたい存在である。また、今回採録された論文や残念ながら採録されなかった論文のなかには、これまでのグループウェア関係の特集号に発表されていなかった若い方々の論文がいくつかあった。若い方々の投稿が多かったことは心強いところである。このように論文誌の特集号として、様々な研究分野の読者にグループウェアの研究をアピールできたことは、有意義であった。今回の投稿数が少なかったことに関しては、テーマがやや漠然としていたことや、締切とほぼ同時期に開催された第62回全国大会の特別トラックの発表を投稿論文として取りこめなかったことなどが原因と考えられ、今後の検討の課題とするつもりである。

「21世紀のグループウェア」特集編集委員会

- 編集長
宗森 純(和歌山大学)
- 編集委員(50音順)
岡田謙一(慶応義塾大学)、桑名栄二(NTT)、
垂水浩幸(香川大学)、中小路久美代(SRA-
KTL/奈良先端大)、坂内祐一(キヤノン)、星 徹
(日立)

† 和歌山大学